

一色西部小学校の取り組み

本校は、海岸が近く、土地が低い地域であり、常に災害に対しての対策をしなければなりません。そこで、南海トラフ地震・津波警報・台風等で避難情報が発令されたときを想定し、地域や市と連携した防災教育を行うことで、いざというときに適切に判断し、自らの命を守ることができる児童の育成を目指しています。



5月31日 緊急時の引き取り訓練

「緊急時における児童の引き取り訓練」では、避難訓練の意義を知らせ、「自分の命は自分で守る」という気持ちと普段から地震・津波・台風に対する意識を高めることをねらいとしました。

南海トラフ地震に関する情報・津波警報・暴風警報・不審者情報が発令されたとき、児童引き渡しの手順について児童・保護者・教師が確認しました。また、隣接する一色西部保育園と合同で実施し、教師・児童・園児の動きを確認しました。

「避難訓練（地震後津波発生）」では、自ら動き、支え合って、命を守る行動を通して、防災に対する意識を高めること、地震が起き、津波が来たらどのように行動したら安全に避難することができるかを体験させることをねらいとしました。西尾市の「17万人市民まるごと防災訓練」に合わせて、一色高校まで避難する訓練をしました。



11月5日 避難訓練（地震と津波）



11月28日 防災教室

「防災教室（4年生）」では、講師に西尾市役所危機管理課の職員を招いて、防災の話を聞きました。また、防災グッズ作り体験を通して、子どもたちの防災に関する意識を高めました。実際に新聞紙でスリッパ作りとお皿作りを体験しました。とても楽しく学習することができました。

○実践委員会を通して

海岸が近く、低い土地にある一色町では、防災について学ぶことはとても大切なことであると考えます。自校だけでなくまわりの学校と共有するべきことが多くあり、今年度の取り組みはとてもよい機会になりました。また、本校4年生の防災教室は、子どもたちだけでなく保護者へも防災に対する意識を高めることができました。

【今年度の成果と次年度に向けての課題】

今年度の成果としては、防災に対する児童の意識を高めるきっかけができました。今後は、地域に住む人たちに伝えていくことができるような取り組みができるとよいと思います。